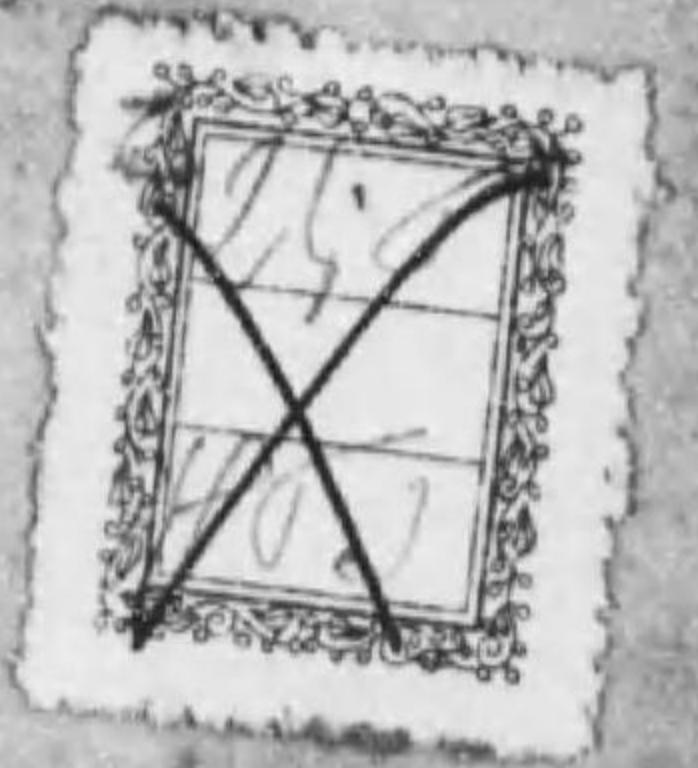


特113

889



9 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5

始



43113  
889

ツレ	ワキ	後シテ	老翁	別
從僧二人	旅僧	平忠度の靈	翁	
右同断	着流し僧			
目番二	類別	浦の磨須國津攝	所	季
月				



# 忠 度

内之部卷之八ノ二

装

東

附

所

季

(面)三光 朝食尉の内 襟 耳髪 着附無地熨斗目 水衣 腰

帶 杖 木の葉持つ

(面) 中將、今若にても 黒垂 梨子打鳥帽子 白鉢巻 着附

厚板 白大口 單法被(長絹にても) 腰帶 太刀 扇 矢

短冊つけ後にさす)

## 解説

ワキ、同ツレ二人と次第にて出で、舞臺に入り、向き合ひ、

ワキ次第『花をも憂しと捨つる身の』と謡ふ。名宣、道行済み、三人共ワキ坐に行き下にある。

シテ、一聲にて出で、舞臺に入り、常坐にて留め謡ふ。

シテ、『實に世を渡る習ひとて』此處は納めて謡ふべし。以下のシテの謡種々緩急あり、口傳。

シテ、『如何に是成老人』此詞はシテへかゝり謡ふべし。

シテ、『柴といふもの、候へば』此處は少し静めて謡ひ、返し地よりさらりとつける。此一段シテに

形あり、見計ひ謡ふ。次のワキとの懸合も心得種々あり、口傳。

シテ、『名も忠度の聲聞きて』此地はさらりとつけて謡ふ。中入。

間済み、待謡、待謡果て、

後シテ、一聲にて出で、橋懸にて開さ謡ふ。

後シテ、『はづかしやなきあとに』此處は納めて謡ふべし。此後緩急多けれども口傳なり。

シテ、『然るべくは作者をつけてたび給へと』此處にて舞臺に入る。

シテ、『實にや和歌の家に生れ』クリ地にて中に行き床几。

シテ、『さわいそがはしかりし身の』此返しにてシテ立つ。是より以下種々形あり。

シテ、『ゆきくれて』此後、カケリ。

十五枚表『扱は疑ひあらしの音に』此處はさらりとづけ、『御身此花の』よりカケリと心持變  
へ謡ひ納むべし。

忠度

説  
花見月夜の月  
月夜の雲は夕日  
は月夜の月夜の月  
月夜の月夜の月

七度思ひて西國行脚とあら

<sup>アシ</sup>城南代離官すわむれ都をゆく

ほく山嶺や闇戸の窓よりうるお

て泊りまくらぬ旅乃ありいざ

身は能くかづりむれぢむかほせ

乃あくたげりが乃よ簾をむき

ルトキ - - - - -  
ルトキ - - - - -

清く何あてテテア  
ルトキ - - - - -

風乃よ。ルトキ - - - - -

風すすめすすめすすめ  
ルトキ - - - - -

うすゆすゆすゆすゆす  
ルトキ - - - - -

かくかくかくかくかく  
ルトキ - - - - -

かくかくかくかくかく  
ルトキ - - - - -

頃  
須磨乃海  
あほのよしをひま  
なきにあらもく千鳥音おと  
船  
汎須磨れ浦うらとやれ  
きゆく其りをくわわ  
字  
内人うちじんあぶさの浦うらは  
をきくよまよや

君はりあめにあめどきはけは  
遠とおみかねうが  
テサレ  
すまゆうをうるはあ  
うめうめうめの波なみぬ  
た  
浦うら本もと運うき行ゆくが  
うめうめうめの波なみぬ  
むまゆうがきうみの浦なみぬ

漢があの小舟を。あれ煙松の  
風いづきうらげ。はまくとす事  
なきよ。又はまゆ乃は陰。一より  
おひじ。日があく人のあく。うるみ  
ちゆり乃は木や。林立す。そよぎ  
を。身向かひたす。はまゆ

東山の山。あく。うるみ。  
おひじ。日があく人のあく。うるみ  
ちゆり乃は木や。林立す。そよぎ  
を。身向かひたす。はまゆ  
いよ。日があく人のあく。うるみ  
ちゆり乃は木や。林立す。そよぎ  
を。身向かひたす。はまゆ

方より通りしをばよどむつて  
きれども海舟の波濤まば  
不焼く甚まくわざひがく  
まく異様ある。度を禁あ  
ゆる煙をまかせと爲本  
下道をかかれ里をかまひ

シテ、人情の拂ふ頃磨の浦 乍  
うころか山あらふ 常とひよ  
まくはなづか鶴 滅本れたまき  
ほれやあらすよれうちまく  
浦傳乃は往うかやあ。轍くよめ  
まぬのうれよれやひまく

くしまをよほしきハ領のう  
や山おつとの音もまくいひ  
じてまたわざと様をえ  
すだま陽れがよほ浦  
風のまくわらちの物を  
居る所の日乃つまつて

一木乃の音をほしり  
うあもかきりんやほ光乃陰  
ほのすがさくまく軍さく  
そはるの音もまくテさく  
雅アラタとまくテ行  
きくもの下膳をやさくさば

うれやかなものあつてあらわす  
お詫びの心をいざなふへ痛り  
や。我の様あるはまくすが、  
ちまゆるい中に浦便車をとど  
運稼あらきひよひをぬが  
詫ひの声また人どかれ行

まくばりはまくせばを  
やあまくのあくわゆを  
お詫びの心をいざなふへ  
浦の入川瀬摩守。忠度と  
申し人をげて若れ合戦を嘗め  
ゆきかたまくの植おこなふ。詫ひの  
本ほんあり。一はさみづ

乃値遇のうきやうもさづく  
りすれ シテカレ  
和子れあくまではある  
岸やかなまゆい乃 アヒ  
あすのの人  
岸下の度シテの事シテとておまけ  
に成 シテヨリ やすが  
今より  
はるかをよみて仕業トク

タ  
まくらに嫁マツコす  
今お嫁マツコの事シテとておまけ  
まくらに嫁マツコす  
何ナニかややせ シテお傳ハセ  
おとす事シテとておまけ  
おとす事シテとておまけ

夢か告ぐまほゆ。都く言ふ傳  
ニシトハミシナヘトナシ。汝の傳  
ヤタクシトシテ。汝の傳。汝の傳  
が方。都。傳。城。汝の傳。  
傳  
けく都。ヨリ。あつて。定。家。まみ  
ま。申。ま。と。都。よ。月。ま。や。く。日  
ま。ま。う。乃。ツ。だ。の。づ。か。よ。よ  
ま。

村。む。鶴。め。詠。乃。ぬ。礪。ひ。乃。ま  
乃。着。る。搖。夜。外。滿。う。も。ま。で。も  
あ。詠。く。ま。ま。ま。ま。け。と。や。れ。を  
ま。ま。う。頃。磨。の。圓。石。乃。ま。ま。ね  
れ。れ。  
持。正。二。中。ナ。ツ。チ。ナ。ツ。チ。ナ。ツ。  
あ。い。浦。ま。ま。浦。ま。ま。浦。ま。ま。

。ましゆきひやつてはまへあら  
よおわほく申すと爲る魂體  
うむりゆくとまうだよがわ  
まくは。ま執事にいはあ  
よ。けは。ま千歳直の。まお  
ほそりたまど。勧勤は身乃無

。まは。まよか。おまく  
ま執事の中おま一あり。ま  
まよ。後、まよ。まよ  
まよ。まよ。まよ。まよ  
人。まよ。まよ。まよ。まよ  
まよ。まよ。まよ。まよ。まよ

狂歌の事と、  
風をくまうより、  
花もよし、  
和えが家よけ道を、  
あふるまきて、  
人倫めぐらしあり  
サ草  
中よし思度は、  
一通を、

狂歌の事と、  
眼を、  
白は院乃は、  
字すじよお城集を、  
持す。が、  
障の、  
狂歌の行を、  
持つ。を、  
持よ。年が暮れ  
乃ねのよがを、  
時ちよみば、  
かさむりが、  
かさむり方乃ぐ

さうしたるがつまらざないう  
ようゆきかく後成の家あひ  
すまはくまわせたて  
ゆきがまゆらがまくらをり  
て西海乃はのよもぎとまむ  
まぬのほほ自乃まみがまう

平定代たゆよあとあら  
さくわくそはくわくとせたまがふ  
乃はくらくらくらくらくら  
ゆくわくわくわくわくわく  
海よくわくとせ我も能くら

すまじやかうの國れ候ふよ羅  
部のふるはまを思ひてあひて  
ちた候ふくへ遊遊たりあひて  
すまき前よりもあし。おれま鐘を  
引くまばらはまわらむと  
總あ馬へりあひてよどみぬる

うねあせうね  
一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、  
ある事と、ある事に、ある事と、  
一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、  
郎おまほようちまつりよと角  
一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、  
ある忠度の。右れあもおがく  
一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、  
さば。若れあもあもおがく  
一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、  
ア放のを今けりとわざりて

トリ。乃のまへかく人よ西おうまんと  
ナム。自らてがる明遍昭す方せ裏  
念ねむすを捨不捨と乃のまへかく  
は走れども痛りやうく  
さうも。どうゆきよかまぬきも  
つるほ首。打あくひうちほる

ひよやね。痛りや枝人へは死  
瀕を見なば。やうくた  
長月。どうれし。死  
まくわくめちと。死ゆよ  
村。みぢ。錦の直。書ハキ  
あくよ。あくよ。ひねり

うのまの。おゆかふくらうあくらうかとほ  
りゆく。とくにゆく。おひじをとくにゆく。  
かくゆく。とくにゆく。おひじをとくにゆく。  
かくゆく。とくにゆく。おひじをとくにゆく。  
かくゆく。とくにゆく。おひじをとくにゆく。  
かくゆく。とくにゆく。おひじをとくにゆく。  
かくゆく。とくにゆく。おひじをとくにゆく。  
かくゆく。とくにゆく。おひじをとくにゆく。  
かくゆく。とくにゆく。おひじをとくにゆく。  
かくゆく。とくにゆく。おひじをとくにゆく。

おひじとゆく。おひじとゆく。  
あくらうか。おゆか。おゆか。  
おゆか。おゆか。おゆか。  
おゆか。おゆか。おゆか。  
おゆか。おゆか。おゆか。  
おゆか。おゆか。おゆか。  
おゆか。おゆか。おゆか。  
おゆか。おゆか。おゆか。  
おゆか。おゆか。おゆか。  
おゆか。おゆか。おゆか。



着 住 権 所 有

大正五年四月九日發行

東京市深川區西平野町一番地

著作者 寶生九郎

東京市日本橋區通四丁目八番地

發行者 江島伊兵衛

東京市日本橋區通四丁目八番地

發行所 榊屋謠曲書肆

東京市神田區皆川町二番地

印刷者 田村茂太郎



おもむろにわざりぬるや。我あくまじ  
そく事きよぬく本法をも様のやう  
とまばら。おもむろにわざりぬるや。

終

